



米連邦公開市場委員会は今後の利上げ休止を示唆

- 米連邦公開市場委員会(FOMC)は政策金利の据え置きを決定し、今後の利上げ休止を示唆する慎重姿勢を示す。
- 米連邦準備制度理事会(FRB)のバランスシート正常化策に関しても、保有資産の縮小ペースを見直す用意を示唆。
- FOMCのハト派的な慎重姿勢を米国株式市場は好感。FOMCが市場に歩み寄る姿勢は投資家心理の改善要因に。
- 米国株が回復基調を維持するかは米国企業の決算動向がカギ。18年4Qの決算は前期と比べて軟調な傾向。

FOMCは利上げ休止を示唆する慎重姿勢を示す

米連邦準備制度理事会(FRB)は1月29-30日の連邦公開市場委員会(FOMC)で、市場予想通り、政策金利の据え置きを決定しました。

FOMC声明文では、「先行きの政策金利の調整が適切かどうかを忍耐強く判断する」と述べられ、今後の利上げ休止を示唆する慎重姿勢を明らかにしました。加えて、FRBはバランスシート正常化策に関しても、特別な声明文の中で、今後の経済活動や市場動向に応じて保有資産の縮小ペースを見直す用意があることを示唆しました。

FRBは利上げ方針を軟化させ、市場に歩み寄る

FOMCが今後の利上げに対してハト派的な慎重姿勢を示したことを米国株式市場は好感し、1月30日のS&P500指数は昨年12月6日以来の水準へ回復しました(図1)。

米国株が年末年始にかけて調整した一因には、利上げ局面の終着点を巡るFOMCと市場の見方の相違がありました。足元で市場は年内の追加利上げを織り込んでいない一方、昨年12月のFOMCでの政策金利見通しでは2019年に2回の追加利上げが見込まれていました(図2)。

足元での米国株式市場の調整や米中景気の減速懸念の台頭を受けて、FOMCがタカ派的な利上げ方針を取り下げ、市場に歩み寄る姿勢を示したことは、今後の投資家心理改善を支える要因となりそうです。

当面は米企業の決算動向が市場の注目材料に

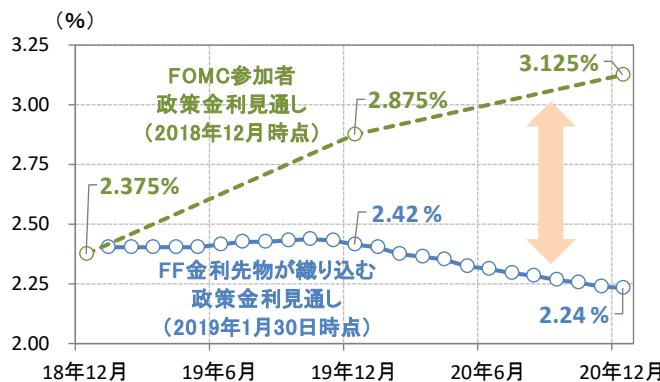
今回のFOMCが市場の期待するハト派的内容となったことで、米国株が回復基調を維持するかは2018年第4四半期の米国企業決算がカギとなりそうです。1月30日時点でS&P500指数採用企業167社が発表を終えた第4四半期の決算は、前期と比べ軟調な傾向にあります(図3)。残りの決算発表で底堅い業績が示されるかが注目されます。

図1: 米政策金利、米国株、米長期金利の推移



(出所)ブルームバーグ (期間)2017年7月3日~2019年1月30日

図2: FF金利先物とFOMC参加者の政策金利見通し



(出所)米連邦公開市場委員会(FOMC)、ブルームバーグ (注)FOMC参加者の政策金利見通しは中央値。

図3: S&P500指数採用企業の決算動向

ポジティブ・サプライズ比率				
	18年1Q	2Q	3Q	4Q(1/30時点)
一株当たり利益	79.4%	78.4%	77.4%	66.1%
売上高	77.3%	74.2%	61.7%	57.0%
一株当たり利益(EPS)伸び率				
	18年1Q	2Q	3Q	4Q(市場予想)
前年比	25.1%	25.5%	26.4%	11.0%

(出所)ファクトセット (注)18年4QのEPSは1月30日時点の市場予想。ポジティブ・サプライズ比率は業績が市場予想を上回った企業の比率。

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。